

G2東海S

<最終見解>

昨年10月以降に良馬場以外(湿ったダート)で行われた京都ダート1800mは14レース。
父サンデー系はたったの1勝。父米国型は10勝。

単勝10倍以内の人気馬も父サンデー系は複勝率33%。

一方米国型は複勝率72%。

圧倒的な米国指向の馬場になります。

推定上位人気は揃って父が非米国型。

ここは人気薄の父米国型を積極的に狙いたい局面。

本命はタイセイドレフォン。

父米国型。母父も米国型。反動出やすいdreフォン産駒らしく、
近4走は休み明けで好走後は凡走の繰り返し。

今回はフレッシュな状態で有利な馬場が想定されます。

相手本線もミッキーヌチバナ。

父ダノンレジェンドは米国型。

近親に砂の名血ゴールドアリュール。

砂競馬のスケールと米国持続力を兼ね備えた馬。

G2AJCC

<最終見解>

非根幹距離適性と馬力が問われるレース。

サドラーズウェルズ系、ロベルト系の血を持つ馬。

父欧州型×母父欧州型に好相性。

本命はラーグルフ。

馬力血統ロベルトとノーザンダンサーを強化された配合馬。

父モーリスで母父も欧州型は今年の勝ち馬と同じ。
父系は有馬記念一族。母父は同コースで行われたジャパンカップ勝ち馬。

相手本線はモーリスの父スクリーンヒーロー産駒のマイネルウィルトス。

カラテは当レース相性良いステイゴールドの近親。
父も非根幹距離の中山芝G1実績馬。